

安心・安全のインプラントの条件

丸橋全人歯科 院長 辻本 仁志

短いインプラントが多い理由

以前に、丸橋先生の知人の方と会食をする機会があった。その方とインプラントの話になった時の言葉が今でも思い出される。「私も骨が少なくと言われたけど造骨はしていない。まだ造骨なんかしているんですか。」というものだった。その時、周囲の多くの歯医者さんがどんなインプラント治療をしているのか、インプラント治療がどのような経過予後となっているのかが脳裏に浮かんできた。30年近く毎日、他院の多くのトラブル例を診察し、当院の方法で、造骨を行って適切な長さ太さのインプラントを埋入、再治療を行った方の経過を見れば明らかだ。確かに、造骨治療は、個人差が大きいが少なからず腫れや内出血等の傷の違和感は生じてしまう。私は一万例ほど造骨治療を経験し、最初の頃に比べると短い手術時間で、患者さんの受けるストレスや腫れも大半が数日程度と格段に少なくなっているが、ストレスはゼロにはできない。他院であれば猶更で造骨や智歯の抜歯後に数週間腫れや痛みが続いている方がよく来院される。このため造骨治療は患者さんに敬遠されがちなのに、インプラント治療は高齢の方が多く、何らかの持病を持っていることがあり、歯科医が受ける緊張やストレスも大きく、つい楽な治療を選択してしまう。これは、お互いに楽な選択となり、患者さんにも受け入れられやすい。加えて、欧米の論文統計から短いインプラントの予後が良いとの最近のエビデンスが歯科医に大義名分を与えてしまう。欧米人と日本人が同じ骨の強さか、インプラントに咬み合わせの力をしっかりと与えるか否か異なる意見もあり、しっかりと噛ませた場合、果たして短い細いインプラントで良いのか疑問は残る。

昔行った短いインプラントの予後

短いインプラントで良いかどうかはずっと論争が続いている。最近また歯科界で声高に言われ始めたという印象だ。当院もまだインプラント治療が混沌としていた25年ほど前、短いインプラントを使ったことがある。顔の艶が非常に良く、免疫力や治る力が強い方は今もまれに問題なく使用している。しかしながら、早期に問題が生じて長さや太さのしっかりとしたインプラントに再治療したケースが多い。ある時、再治療前後の感覚の比較を聞いてみた。すると短いインプラントの時は骨も薄いためか、咬むと揺らぐような感覚があったがやり直したインプラントはしっかりと噛めるとの答えだった。インプラントは接触する骨で咬み合わせの力を支えている。長さと共に太さもあり、骨との接触面積が大きいインプラントがしっかりと噛めるのだ。インプラントの周りには最低限2ミリの骨の厚みが必要で、経験と技術が必要だが、造骨をして永続的な骨を造り、しっかりとインプラントを埋入することが長期的な安心のためには必要だ。造骨手術後のレントゲンを見てもうと納得で安堵の表情を浮かべる方も多い。(図1、2)

食を含めた手術管理を確実に行う

当院では、造骨手術を行う方全員に血液検査を受けていただいている。結果、検査値に異常が見つかり、内科等を受診していただくこともある。また、日常的な栄養状態もある程度読み取ることができ、骨を強くするために看護師による食事問診と共に指導を行うこともある。生活習慣や食、病気とインプラントの予後は確実に関連している。検診で来院される方の顔色や艶が極端に変わった場合、介護等で生活上のストレスが大きくなった場合や病気、場合によってはガンであったりすることもある。そのようなケースでは、安定していたインプラントの周りの骨が突然吸

収してくる場合がある。香水の香りが極端に強い方で何度手術しても傷の治りが悪い方も2例ほど経験した。やめていただくと傷の治りがすんなり良くなった。食べ物や環境の背景への配慮も大切だ。また、インプラントは高齢の方への適応が多く、持病の管理、対応も必要で、飲み薬の確認や病気の状況の確認のため医師との連携を要する場合もある。たまたま事故が起こらなかったというのでは安全とは言えない。当院では看護師と連携して、病気を把握しつつ、緊張が和らぐように鎮静剤での点滴麻酔を行いながら酸素濃度や血圧を監視して造骨治療を行っている。

インプラントの予後を左右する咬合

咬み合わせが姿勢や体調を左右することは疑う余地がない。正しい咬み合わせで治療すると、姿勢や顎関節の動きが左右同調して治療前に比べ100%改善するため治療評価の一助としている。逆に、咬み合わせバランスが崩れていると姿勢が崩れ、

顎関節の動きも体調も悪くなる。この状態だと歯やインプラントに負担がかかり、歯周病やインプラント周囲の骨が溶けるインプラント周囲炎が進んでしまう。他院で治療したインプラントに痛みや骨の吸収等の不具合がある場合、咬み合わせにも問題があるケースがほとんどで、姿勢

笑顔と健康を守る最先端の選択肢「ジルコニアクラウン」

丸橋全人歯科 青木 博之

近年、複雑な世界情勢や経済変動の影響により、金やパラジウムなどの「歯科用金属」の価格が著しく上昇しています。

かつて虫歯治療の被せ物は「銀歯」などの金属製が一般的でした。しかし金属価格の高騰により、従来素材を使い続けることがコスト面で難しくなっています。さらに、お口の金属が全身の健康に悪影響を与える可能性も広く知られるようになりました。そこで従来の金属に代わる、安全で美しい次世代の標準素材として世界中で主流となっているのが「ジルコニア」です。

ジルコニアはセラミックの仲間ですが、非常に優れた強度と美しさを持つ特別な素材です。その硬さと透明感のある輝きから、アクセサリー等で「人工ダイヤモンド」と比較されるほど、圧倒的な耐久性と自然な審美性を兼ね備えているのが最大の特徴です。

6つの健康メリット

ジルコニアクラウンには、単に「見た目が綺麗」「割れにくい」というだけでなく、数多くの優れたメリットがあります。

1. 金属アレルギーの心配がない

ジルコニアは金属を一切使用しない「メタルフリー」素材です。そのため金属アレルギーをお持ちの方でも安心して治療を受けられます。今はアレルギーがない方でも、長期間お口に金属が入っていると溶け出した金属イオンが蓄積し、将来突然ア

は大きく狂っている。当院ではまず姿勢を評価して立位で顎の位置を確認した後に、その位置が狂わないように補綴物の調整を行っている。当院のインプラント治療が長く安心して使えるのも、体のねじれのストレスを歯に与えない精密な調整を行っているからである。

レギーを発症するリスクがあります。ジルコニアならそうした将来の不安も無用です。

2. 歯茎の変色などの影響がない

お口の中に金属の被せ物があると、経年劣化で金属成分が唾液に溶け出し、歯茎に沈着して黒ずむこと(メタルタトゥー)があります。ジルコニアは成分が溶け出さないため、いつまでも健康で美しいピンク色の歯茎を保つことができます。

3. 不快な「ガルバニー電流」を発生させない

お口の中に異なる種類の金属が存在すると、唾液を介して微弱な電流(ガルバニー電流)が発生することがあります。これが原因で、自律神経の乱れ、頭痛、肩こりなどを引き起こすケースが報告されています。

ジルコニアは電気を通さないため、この不快なガルバニー電流を発生させることはありません。

4. プラークが付着にくく、二次的な虫歯のリスクを減らせる

ジルコニアの表面は非常に滑らかで、汚れを弾く性質があります。そのため虫歯や歯周病の原因となるプラーク(菌垢)が付着しにくく、毎日のお手入れで簡単に汚れを落とせます。被せ物の下で再び虫歯になる「二次的な虫歯」のリスクを大幅に減らせる、極めて衛生的な素材です。

5. 熱伝導率が低く、温度の刺激を伝えにくい

金属は熱を伝えやすく、銀歯を入れた直後に冷たい飲み物や熱いスープを口にする、温度の刺激が神経

に伝わり「しみる」と感じる場合があります。一方、ジルコニアは熱伝導率がとても低く、温度変化から歯の神経を優しく守ってくれます。そのため、治療後の食事がとても快適になります。

6. MRIの画像への影響がない

脳ドックや精密検査などでMRI検査を受ける機会が増えています。お口の中に金属があると、磁気に反応してMRIの画像が乱れ、正確な診断の妨げになる(アーチファクトと呼ばれるノイズが入る)ことがあります。非金属であるジルコニアは磁気の影響を全く受けないため、将来万が一の検査の際にも安心です。

ご希望に合わせて選べる「2つの種類」

患者様のお口の状態や、治療する歯の場所、そして「どこまで美しさを求めるか」といったご希望に合わせて、大きく分けてフルジルコニアと、審美性を高めたレイヤリングの2つの種類をご用意しております。

・フルジルコニアクラウン

高純度のジルコニアブロックを最新デジタル技術で削り出して作った被せ物です。とにかく頑丈で割れに



フルジルコニアクラウン

認知症予防のために

丸橋全人歯科副院長 堀口 智行

日本では認知症の患者が増え続けています。2017年に公表された報告書では、日本の認知症の有病率は先進国トップの2・33%。平均の1・48%を大きく上回ります。内閣府の発表では、65歳以上の認知症数が少なく見積もって、2020年は約631万人、2025年には約730万人に達し、5人に1人が認知症を患っていることになりました。認知症の一番の問題は、未だ根本的な治療が見込めないことです。最新の治療薬を使っても、一度低下した認知機能を回復することはできません。認知症のリスクを限りなく遠ざ

けるための生活を心がけることが大切になります。老化によって認知機能が低下するのは事実です。認知症と老化による「もの忘れ」の違いは、忘れていくことを自覚できているかどうかです。日本で最も多いのは、認知症の約7割を占めるアルツハイマー型認知症です。アルツハイマー型は、脳の海馬という部分を中心にダメージが始まります。最初の症状は記憶障害です。その後徐々に脳全体に広がって脳の萎縮が進み、それぞれの場所が担ってきた機能に支障をきたすこととなります。言語障害も早い段階からあらわれます。次い

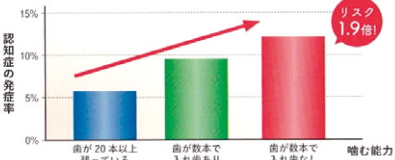
で多いのは、脳血管性認知症です。脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血などの脳血管障害によって認知機能が下がるのが原因です。日本の認知症の約7割を占めるアルツハイマー型は、2つのたんぱく質が関わっていることがわかっています。一つはβアミ



ロイドです。βアミロイドは神経細胞が活動しているときに出てくる老廃物、つまり脳が活動した結果出てくるゴミです。ゴミなので、通常は脳の外に排出されたり、脳内で分解されたりします。脳が老化してくると、βアミロイドを分解・排出するシステムも衰えてくるため、脳の中にゴミがたまりやすくなると考えられています。はじめは小さいのですが徐々にひとつのかたまりになり、やがて脳の神経細胞に外から働いて死滅させる毒性をもつようになりま

βアミロイドの分解まで手が回らなくなり、脳内にβアミロイドがたまりやすくなるため、発症リスクが高まるわけです。WHOの認知症予防ガイドラインの中で、強く推奨されているのが①適度な運動②バランスのとれた食事③禁煙④高血圧の管理⑤糖尿病の管理⑥脂質異常症の管理です。認知症対策はそのま生活習慣病予防と重なり、環境要因が大きいのです。脳が働く環境を守るために活性酸素の解毒剤となる抗酸化物質を含んでいる食物も欠かせません。緑黄色野菜やフルーツに含まれるビタミンC、植物油やゴマやナッツ類などに含まれるビタミンE、赤ワインや緑茶など脳のゴミをきれいにするポリフェノール類、海藻類や魚介類に含まれるミネラル類、色が濃くて鮮やかな野菜やフルーツに含まれるカロテノイドなどです。あまり関連性がないように思われますが、口内環境を健康に維持することも、認知症を遠ざけることにつながります。最近の研究で歯周病の原因となる細菌が認知症にも影響を及ぼすことがわかってきました。噛む力が衰えると、認知機能の低下につながります。原因は、脳への刺激が弱くなること、硬い食べ物、野菜やナッツ類などを避けるようになるからと考えられています。自分の歯が9本以下の人は、20本以上ある人に比べると、認知症の発症リスクが約2倍になるという報告があります。このリスクを防ぐには、口内環境をいつも清潔に保つ

歯が20本以上あると認知症リスクが下がる!



ようにするとともに全身姿勢を鑑みた正しい咬み合わせにすることが必須です。まさに全人歯科の治療の取り組みそのものが、認知症対策となるのです。



人生を変えたインプラント治療

山梨県 K・S

(76歳)

子供のころから歯医者さん通いをしていました。大人になってからもいくつもの歯医者さんで治療してもらいましたが、それでも、少しずつ悪くなっていき、1本・2本と抜かなくてはならず、部分入れ歯、ブリッジなどの治療を受けていました。忙しいときやストレスがたまると、歯茎が痛むことが増え、酷いときは良く眠れないこともありました。

40代になったある日、仕事帰りに寄った書店で丸橋先生の著書と出会ったことが、人生を変えた、と言っても過言ではないと思います。「食生活について」「歯は全身の健康に関わっている」ひとつひとつの指摘に頷くことばかり。片道4時間の距離も通えないことは無い!と思うとうれしかったです。

初めて受診したとき、丁寧話を聞いて頂いたこと、30年以上も経つのに良く覚えています。それから高崎通いが始まりました。丁寧な根管治療で、改善したことを実感しました。その後は定期検診に通っていましたが、20年以上たつて、転んで顔面殴打し、前歯全体が動揺。他にも問題があり、インプラントという選択肢を薦めて頂きましたが、以前「支える骨が弱く無理」と診断されたことをお伝えしたら、今は造骨という技術もあり、大丈夫とのこと。そうはいつでも、ごっそり抜くことへの不安、年齢や金額のこともあり、迷いに迷いました。

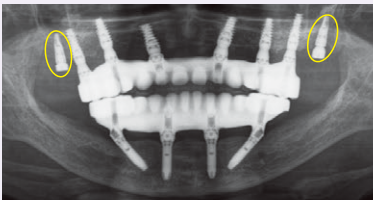
でも今までの丸橋歯科に対する信頼から、治療を決心。コロナ禍などもあり、5年の歳月がかかりましたが今、治療が終わって諦めていた食べること味わうことの喜びをかみしめています。

また、片側でずっと噛んでいたことによるのか、顎の形が偏っていたのも改善してくださり、肩こりなども随分楽になったと感じます。

例えば、丸橋先生の著書との出会い、辻本先生の確かな技術と患者のことを大切に考えてくださるスタッフの方たちとの出会いがあり、インプラントへの決断ができたこと、本当に幸運だったと思います。今、迷っていたころの自分に会えたら、大丈夫、良い未来が待っている、と声をかけたいです。



インプラント治療前のレントゲン写真。20年何とか使ってきた歯周病を治療した歯も限界となった。



インプラント治療後のレントゲン写真。カミソリのようにうすい骨を造骨し、インプラント治療を行った。体調も改善した。※○部インプラントは除去済み。

実感した歯の力

神奈川県 K・K

(主婦)

子供の頃から歯の悪さに悩まされ綺麗な白い歯を見せて笑顔がつけられ

る人を心から羨ましいと思っていました。それに対し私は、人前で自然に思いきり笑えたことなど一度として無く、劣等感のかたまりでした。

歯科医院通いも絶え間無く、手入れも熱心に行っているのに、自分の努力だけでどうにかなるものではないと思ひ知られる毎日でした。

東京の大病院に通っている頃偶然「インプラントで安心」の本を見つけました。その本には私の知りたかった事や、疑問に思っていたことがすべて書かれていて目が醒めた思いでした。この本を手にとることができたのはこの上なく運のよい出来事だったと思います。

当時はインプラントはとても高価で、庶民には手の届かないものというイメージがあり、また私の住んでいる神奈川県からは遠すぎると思っていました。今思えば、その時治療を受けるのが正解だったのです。

それから10年以上たち、別の歯科医院で素人からみてもおかしい治療が始められた時、私は高崎行きを決行しました。遠すぎるという人もいましたが、それは本人が歯で苦労していないからです。自宅から往復8時間強、幸い小田原から湘南新宿ライン特別快速が出ていたので利用しない手はないと思いました。

思っていた通り、インプラント、根管治療等、とても丁寧に進められ、こんなに安心して通院できる所はほかに無いだろうと思いました。

当時の私は雲の上を歩いているような、ふわふわした慢性的なめまいに悩まされていました。耳鼻科、整形外科、心療内科等で診察を受け、CTやMRIも異常無し。耳鼻科の先生からは耳の機能が大変良いと、かえって褒められる始末です。

めまいの原因は、左右の耳の高さがそろっていないからなのだそうです。顎の位置を修正し、よい噛み合わせにすれば、めまいから解放されるというものです。めまいを軽減したくて自分の考えで乗り物酔いの薬を1日に3錠位飲んでいましたが、本格的に調整しだして3ヶ月位たった頃には、何も飲まなくて済むようになりました。それと同時に、何かに鬱々としたいやな気分や早朝覚醒から

らも解放されました。

噛み合わせの大切さは充分わかっているつもりでした。高く感じる所を削り、噛みやすくなればよいという安易な考えが、体調の悪さを自ら招いていたのです。半世紀程も慣れ親しんだ悪い顎の位置を修正するのはかなりのストレスでした。私の場合、一気に顎の位置を修正したので余計大変だったのかもしれない。先生方の高い技術や知識、経験、そして何より私を見捨てずに根気よく向かい合ってくださった事が大きな救いとなりました。

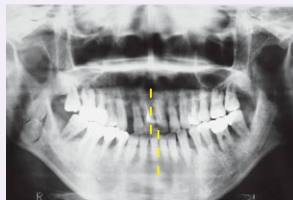
「人間の体は魂の乗る車だから、大切にしなければいけない。」漫画家の故さくらももこ先生のエッセイの中にそんな文章がありました。私にはその意味がよくわかります。体と精神は切りはなせないものです。これからは色々な知識を身に付けて、実行し、少しは自分を褒めてあげられる人生が送れたらと思っています。

心からの笑顔

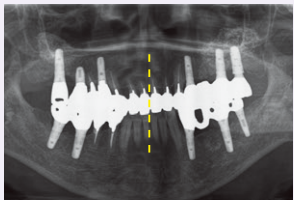
宮城県 匿名

(主婦 69歳)

私は小さい頃から歯が弱く、十代で特に前歯の虫歯がひどく笑う時は口を手で隠していました。そして三十代、四十代は歯周病に悩まされ、何軒もの歯科医院で診てもらいましたが悪くなるばかりでした。そんな時丸橋先生のご著書に出会いました。地図や時刻表を照らし合わせると、よし、通える、と思いました。新幹線に乗る継いで行くのは私にとって勇気のいることでした。一大決心の県外遠距離通院でした。



初診時のレントゲン写真 奥歯の歯周病が進行し、左への下顎のズレも認める。



治療後のレントゲン写真 奥歯をインプラントで再建し、下顎の位置を正しく治すと、坐骨神経痛、腰痛、不眠が大幅に改善した。

作家丸橋賢デビュー 反響続々



NHK「明日へことば」で取り上げられたばじまりの谷



はじまりの谷
A and F

昭和初期の上州の山村を舞台に、現代では失われてしまった、美しい風景、自然への畏怖、家族や近隣の人々のぬくもりを鮮やかな筆致で描く。少年はまっさらの心で、いくつかの出来事を通して成長する。そして、死の淵から還ってなお反骨の精神を失わない老人との絆を通して、自らの生涯を切り開いていく。「思考の礎」ともいえるべき精神性を養ってゆく。自らの克明な記憶をモデルに瑞々しい筆致で描いた一冊。

《読者の反響》

・鳥肌が立った。読みはじめの一ページから情景が頭に入ってくる。一瞬にして、読者は主人公に憑依する。この時代は、与えられたものの、完成されたものはほとんどなかった。積み重ねる小さな成功体験。それでも繰り返すくじり。自分で勝ち取る経験が、自分を強くする方法だった。中略。経験したものだけが、書くことのできる世界。この本の中には、子どもが体験する大人になるための階段がいくつも示されている。読者は、感じるだろう。この文章から愛しくもあり、哀しくもあり、温かくもあり、切なくもある感情を。そして広がる空間と、世界観。見事に表現されている。

・この第一編のインパクトは、少なくとも一週間は続くだろう。胃のちようど真ん中まで届き、しばらく止まるだろう。命のものがたり。帯に

あるように瑞々しい感受性をもつ少年の、鮮烈な心の物語。少しわかったような気がした。・第一編の、最後の言葉が、甘く、苦く、重い。私より2年先に生れただけの著者から、私は、生きるとはこういうことなんだ、と教わったと感じる。そして、生きることこうして伝えるという方法があるのだ、と、教わった。

医療業界の常識を覆す、奇跡の物語!!「溶けるひと」



溶けるひと
幻冬舎

閑静な住宅街にひっそりとたたずむ歯科医院を経営する主人公の三鶴草介。草介は歯科医師でありながら、頭痛や腰痛、アトピーなどのあらゆる症状に悩む患者やその家族を独自の治療法によって救ってきた。医療業界では異端な存在であったが、そんな草介の噂を聞きつけ、来院したのは不登校になってしまった息子の母親だった。草介の治療法と言葉によつて、その少年や家族の運命がどのように変わっていくのか。不登校児童の激増と凋落する日本に警鐘を鳴らす一冊。

《読者の反響》

・「溶けるひと」は単なる個人の物語ではありません。不登校問題という個々の問題を通して、現代日本の抱える問題、特に教育制度や社会システムの歪みを浮き彫りにしているのです。少年の抱える問題、そしてその背景にある社会の病理は、現代日本の縮図のように見えます。高度経済成長期以降の日本社会が抱える様々な問題、競争社会の過酷さ、人間関

係の希薄化、そして心の病の増加といった現代社会の闇を、この小説は静かに、しかし力強く描き出しています。

・不登校の身内がいる。思わず写真で体の歪みを確認してしまった。かみ合わせが姿勢に、そして自律神経にと。食事(食材)の大切さ。日本人が退行している。思うことばかりで背筋が凍った。

・研究途中であり、実証され、体系化され、学会で認められているわけではないが、歯科医師である著者が感じる、確かな手ごたえ。この本を、全くのフィクションと読むか、フィクションの形を借りた真実と読むかは、読者に任されている。著者が長年、人を「全人的に」みてきた、経験の思いが満ちている。世間が何と言おうとも、本質をみよ。何が理にかなっているか。人生を選ぶのは本人だけ。自分で選び取れ。子どもの人生に、岐路を見たのなら、親としての決断を間違えな。不登校は、カウセンリシングや投薬治療では「完治は難しい」。それは周知の事実である。体の不調。心身があげる悲鳴。それがどこから来るか。咬み合わせのズレは、球体(頭)の重心のずれを引き起こす。重心がずれたままの球体が乗った脊椎は、倒れないように重心調整をして、弯曲する。これが歪みだ。ゆがんだ体は、神経も精神もゆがむ。理解できない人はおるまい。納得の内容。

・子供の育成やトラブルに関わる仕事に就いている者として読ませていただきました。筆者が作品を通して世に訴えたかったのは、今、正に日本が抱える問題そのものだと感じました。少子化で子供が少なくなり、国の力が弱くなっている現代の日本で、将来を担う貴重な子供がさまざまな問題を抱え、活躍できるかわからない。その原因は何か。専門家による検証はなされているのか。それを実現させる政治的アプローチはあるのか。子供が活き活きと活躍するために本来、責任のある組織、専門家はどこか、誰か。はじめに歯科医を思い浮かべる人は少ないと思います。そんな、なんとなく世の中が事なかれ、同調圧力が強く、問題の確信に迫らない風潮の中、問題と解

決の可能性を見出し、このような形で世に一石を投じた筆者に敬意を抱かずにはいられませんでした。

自然に囲まれた静かな山村が舞台
夜明けはピンクゴールドに輝いて



夜明けはピンクゴールドに輝いて
KADOKAWA

開業のために地方に帰ってきた医師・酒元瞭平と、運送業を営む三輪龍太。ともに妻子が去り、家も事業も消滅のせとぎわに立たされるが、ある日、龍太の姿が消え、その背後に漂う隠された意図に友人たちは疑念を抱く。一人で絶望から立ち上がるうともがく瞭平は次第に消耗して倒れ、龍太は社会に潜む闇に落ち、苦しむ。再生をめざす瞭平と脱出を企む龍太を待つものは何か?人間関係の機微と心象風景を描いた一冊。

《読者の反響》

・これは作者の遺言書である。彼は80の齢を過ぎていた。しかし彼はその寿命に執着することなく、淡々と自分の人生を眺めている。どこまで彼の私生活が反映されているかはわからないが、人は去る。しかし決して彼から去らないものがある。それは己の信念である。その一点を忘として、本作は描き切っている。

・この作品にはどうしようもない人生の後悔、苦悩があまりにもリアルに描写されています。人間誰しも、人生になるべく後悔はしたくないと願うものですが、この作品に触れ、著者の濃密な人生観と共に、自分の人生に対する一抹の不安をかんじてしまいました。人生で何かを成し遂げるためには、信念を持つことが大事だと考えますが、信念を持つて臨んだことが果たせなかったとき、やはり最後のその時に後悔をするのでしょうか。信念がなければ後悔なんてすることはない。でも、信念を持ってやり尽くせば、後悔はない。考えさせられます。

良い歯の会にご参加ください

良い歯の会では、身心ともに健康でいるために、正しい歯科治療を受けることや予防の大切さ、また体が喜ぶ食事を摂ることがいかに大切かをお話ししています。

また、本物食品と市販食品を実際に試食で食べ比べていただき、その違いを実感していただいています。

日時：毎月 第2土曜日 午後1:30～5:00
場所：丸橋全人歯科 3F 研修室

テーマ	開催月
環境と人間の生き方を考える	1月 5月 9月
ムシバ予防を中心に家族を考える	2月 6月 10月
歯周病と生活習慣病を克服しよう	3月 7月 11月
退化病と闘う	4月 8月 12月

参加
無料

どなたでも参加できます。ご家族、お友達などお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

お電話にてご予約ください。 TEL 027-323-9524

編集後記

日々当院に来院され、診断、治療をしている患者さんが、よく考えると実は大変難しい治療や判断が必要な状況である場合がある。普通であれば治療を拒否されるか、その場しのぎの結果の良くない治療法に誘導され、理想からかけ離れた、患者さんからすると、とりあえず体裁が整ったように見える治療を受けるが歯を失うような例である。同じ釜の飯を食い、思想を共にし、まじめでいい先生であっても、退職後に治療を見て不満に思うこともある。誠実でない先生であれば尚更である。最近、治療の良し悪しを決める決定的な要因は患者さんに対する熱意だろうとつくづく考える。どんなに知識があっても、熱意がなければ決していい治療はできない。熱意をもって治療にあたり、観察し、また治療に生かす。その繰り返しがいよいよ治療を生む。歯科医療が悪いのは制度や欲でその純真なる部分を失っているからではないだろうか。(辻本)

東京イベントを開催しました！
コロナ禍により中断し、7年振りの開催となった「良い歯の会」の東

後もイベントを通して当院の治療や健康観が、歯で困っている方々に届けられればと考えています。

丸橋歯科「良い歯の会」公開イベント

歯を軽視するな

歯と食と健康のすごい関係がわかる
講演会・患者体験談と相談会

2026年 6月13日(土曜) 御茶ノ水ソラシティ ホールEAST
9:30～16:30

講演3題
患者さんによる体験発表

歯の無料相談会
毎回大好評!!
咬み合わせ体験(バイトトライ)
無料測定

45 years
「良い歯の会」開催

